

◆ 当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書を
よくお読みください。

DIGITAL PIANO PN250

取扱説明書

KAWAI

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。

本機では、ピアノの音色はもちろんオルガンなど全 8 種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能、音に残響効果を与えるリバーブ、伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングなど多種多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目次

1. 各部の名称と働き	4
2. 演奏してみましょう	6
1) 基本操作	6
2) ペダルを使って演奏	10
3) デュアル演奏	11
4) トランスポーズ	12
5) タッチカーブ	13
6) デモ曲の演奏	14
7) メトロノーム	16
3. 録音・再生	18
1) 録音	18
2) 再生	21
3) 曲の消去	22
4. 設定モード	23
1) チューニング	25
2) 音律の設定	26
■ MIDI 機能の使い方	28
3) MIDI 送信・受信チャンネル	31
4) プログラム(音色)ナンバー送信	32
5) ローカル・コントロール	33
6) マルチ・ティンバー・モード	34
7) チャンネルミュート	36
8) プログラム(音色)ナンバー送信	37
■ 主な仕様	38
MIDI IMPLEMENTATION CHART	39
MIDI Exclusive Format	40

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意
感電の危険あり
本体をあけるな



このマークは、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例



△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。



○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。
左図の場合は「分解禁止」が描かれています。



●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。
左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。



警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止



●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



●感電の原因になります。

◆本機を落とさない

落とさない



●運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない

- イスで遊んだり、踏み台にしない
- イスには2人以上で座らない
- イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）

使用しない



●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止



●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

分解禁止



●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間ご使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く



●落雷時に火災の原因になります。

⚠ 注意

◆ 本機を次のような所では使用しない

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- 戸外など極端に温度の低い場所
- 極端に湿度の高い場所
- 砂やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

使用禁止



● 故障の原因になります。

◆ 鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる



● いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆ コード類を接続するときは、各機器の電源を切て行う

電源を切る



● 本機や接続機器の故障の原因になります。

◆ 本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない



● 水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆ 本機の鍵盤にもたれない

もたれない



● 本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆ テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す



● 本機が雑音を発する恐れがあります。
● 本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆ 電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする



● コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン/シンナー禁止



● 色落ちや、変形の原因になります。
● 清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆ 本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



● 変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

■ 保証書について

● 本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

● 保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

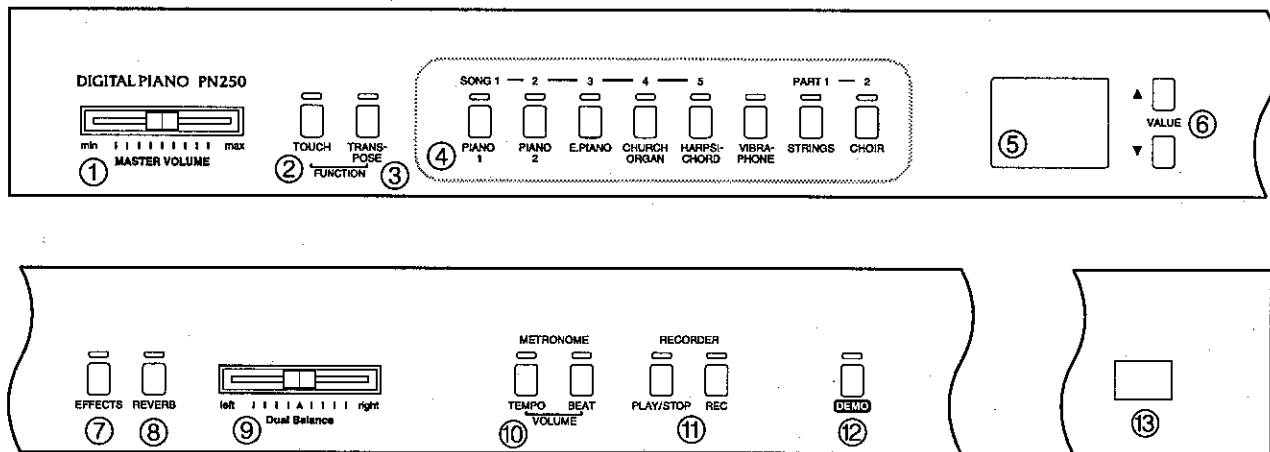
■ 修理について

● 万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1. 各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◆前面



①MASTER VOLUME (ボリューム)

内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。max側は音量が大きくなり、min側は音量が小さくなります。

②TOUCH (タッチ) [→ P.13]

タッチカーブを選択するボタンです。タッチカーブについての詳細は、13ページを参照してください。

③TRANSPOSE (トランスポーズ) [→ P.12]

トランスポーズ機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をする時などに便利です。

●FUNCTION (ファンクション) [→ P.23]

TOUCH/TRANSPOSEボタンを同時押しで、設定モードに入ります。

④音色セレクトボタン/音色名表示 [→ P.7]

音色を選択するボタンです。演奏したい曲想などに合わせてボタンを押してください。押されたボタンの赤いランプが点灯します。

⑤LED

3文字でテンポなどの値を表示します。

⑥VALUE [Up/Down] (バリュー [アップ/ダウン])

値を設定するときに使います。

⑦EFFECTS (デジタルエフェクト) [→ P.9]

コーラス効果、ディレイ効果、トレモロ効果の選択をします。

⑧REVERB (リバーブ) [→ P.8]

音にリバーブ効果(残響効果)を与えることで、美しい響きを得られます。3Dリバーブを選択すればより広がりのある残響が得られます。

⑨DUAL BALANCE (デュアルバランス) [→ P.11]

デュアル演奏する場合の2つの音色の音量バランスを設定します。

⑩METRONOME [TEMPO/BEAT] [→ P.16]

(メトロノーム [テンポ/ビート])

メトロノーム音を鳴らし、テンポ、拍子、音量を設定します。

⑪RECORDER [PLAY/STOP.REC]

(レコーダー [レック/プレイ]) [→ P.18]

PLAY/STOP.RECの2つのボタンを使って、あなたの演奏を録音、再生することができます。

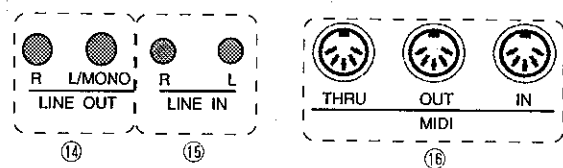
⑫DEMO (デモ) [→ P.14]

内蔵されているデモ曲を演奏させるときに使用します。

⑬POWER (電源スイッチ)

電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。

◆後面



⑭LINE OUT (ライン出力端子) <標準ジャック>

本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、テープデッキに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。R（アール）は右側、L / MONO（エル/モノ）は左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOにのみプラグを接続したときに出力されます。

⑮LINE IN (ライン入力端子) <ピンジャック>

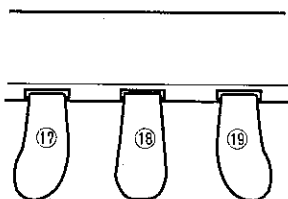
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R（アール）は右側、L（エル）は左側の入力を示しています。

⑯MIDI (ミディ)

MIDI規格に対応している楽器を接続する端子です。

◆本機のラインイン（LINE IN）とラインアウト（LINE OUT）を直接ケーブルで接続しないで下さい。
発振音が発生し、故障の原因になります。

◆足元



⑰ソフトペダル

音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

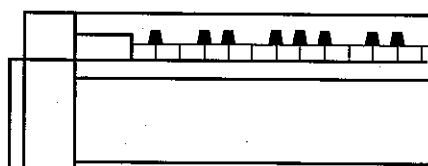
⑱ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むとその音にだけサステインがかかります。

⑲ダンパーペダル

鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサステインがかかります。

◆本体左下側



⑳ヘッドホン端子 (2個)

別売りのヘッドホン（SH-5, SH-2など）を接続する端子です。ヘッドホンを2つまで接続できます。

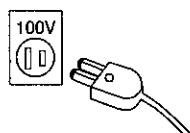
2. 演奏してみましょう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1) 基本操作

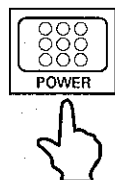
◇操作1

電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

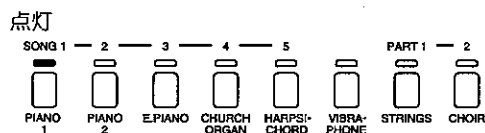


◇操作2

POWER (電源スイッチ) ボタンを押して電源を ON にします。



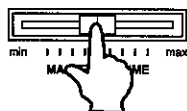
POWER ボタンを押すと音色セレクトボタンのPIANO 1と表示されているボタンが点灯します。



■ 電源をONにした時は、自動的にPIANO1の音色が選択されます。

◇操作3

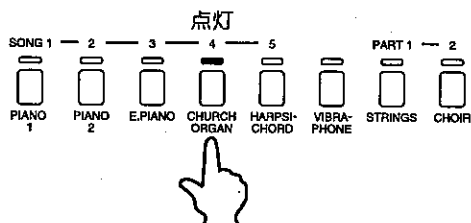
VOLUME ボタンを中央付近にセットします。



■音色の選択

◇操作4

音色セレクトボタンのの中から好きな音色を選んで押します。



押された音色のランプが点灯し選択されます。

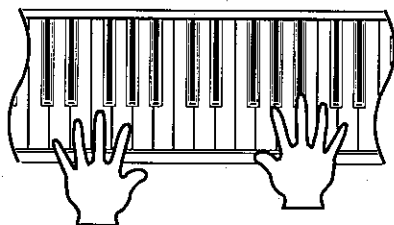
チャーチオルガンの音で演奏したい場合は、左図のように CHURCH ORGAN ボタンを押して点灯させます。

■ 内蔵音色

◆ PIANO1	KAWAIのグランドピアノの音です。
◆ PIANO2	ブライトピアノの音です。明るめなピアノの音です。
◆ E.PIANO	エレクトリックピアノの音です。
◆ CHURCH ORGAN	パイプオルガンの音で、教会などで賛美歌演奏に使われています。
◆ HARPSICHORD	バロック音楽などで使われている別名チェンバロの音です。
◆ VIBRAPHONE	ビブラフォンは、大型の鉄琴です。下に取付けてある共鳴管により美しい共鳴が得られます。
◆ STRINGS	ストリングスとは、弦楽合奏音を言います。バイオリン、ビオラ、チェロやコントラバスを同時に発音した音です。
◆ CHOIR	クワイヤー、人の合唱の声です。

◇操作5

鍵盤を弾いてみましょう。



鍵盤を弾けば “ 操作4 ” で選んだ音で演奏することができます。

音量を調節したい時は、VOLUME ボタンで好みの音量に設定してください。

■音に REVERB (リバーブ) 効果を加える

■ リバーブとは？

リバーブ効果を加えると、音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。

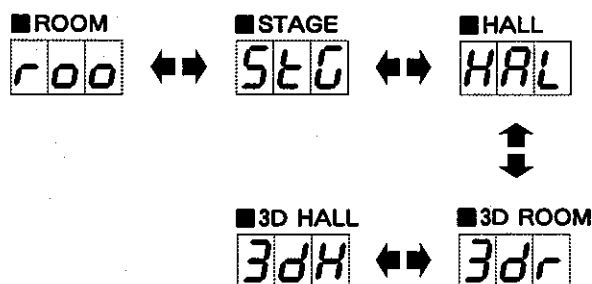
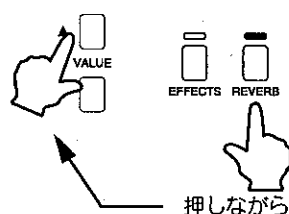
本機では、以下の5種類のリバーブを用意しています。

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| 1. ROOM | 室内で演奏している時の残響効果が得られます。 |
| 2. STAGE | ステージで演奏している時の残響効果が得られます。 |
| 3. HALL | ホールで演奏している時の残響効果が得られます。 |
| 4. 3D ROOM | 室内で演奏している時の残響に3次元の広がりを加えた効果が得られます。 |
| 5. 3D HALL | ホールで演奏している時の残響に3次元の広がりを加えた効果が得られます。 |

◇操作6

REVERBボタンを押しながらVALUEボタンでリバーブの種類を選びます。

REVERBボタンのランプが点灯します。



REVERBボタンを押している間、LEDに今選ばれているリバーブの種類が表示されます。

REVERBボタンを押して消灯させると、音色のリバーブ効果は解除されます。

再度 REVERBボタンを押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブ効果が加えられます。

■音にCHORUS(コーラス)/DELAY(ディレイ)1,2,3/TREMOLO(トレモロ)効果を加える

■ コーラスとは？

元々の音にもう一つのピッチのずれた音を合わせることで、音に広がりを加えます。

■ ディレイとは？

元の音に山びこ（エコー）のような反響音を加える効果です。

本機では3種類のディレイ効果を用意しています。

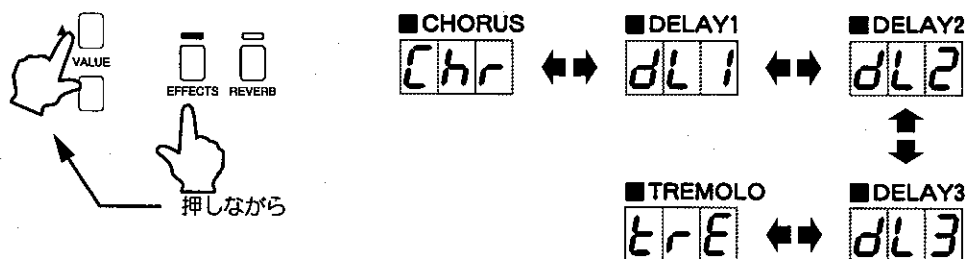
■ TREMOLOとは？

音に " ゆらぎ " を与える効果です。ビブラフォンの音にかけると効果的です。

◇操作7

EFFECTS ボタンを押しながら **VALUE** ボタンで効果の種類を選びます。

パネル上の **EFFECTS** ボタンランプが点灯します。

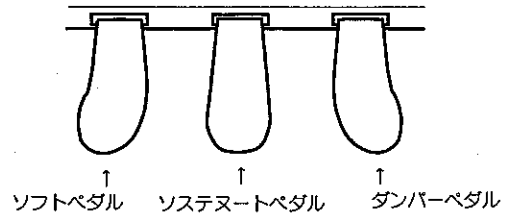


EFFECTS ボタンを押している間、
LED に今選ばれている効果の種類が表示されます。

EFFECTS ボタンを押して消灯させると、音色の効果は解除されます。
再度 **EFFECTS** ボタンを押して点灯させると、前回選択していた種類の効果が加えられます。

2) ペダルを使って演奏

本機には、ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルを装備しています。



■ ダンパーペダル

ダンパーペダルは、足元の3つのペダルの内一番右についているものです。これを踏むことにより、音に余韻を与えます。

ピアノの音は、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。

ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。

■ ソステヌートペダル

ソステヌートペダルは、足元の3つのペダルの内中央についています。

これを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。

従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

■ ソフトペダル

ソフトペダルは、足元の3つのペダルの内一番左側についています。

これを踏むと、音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。

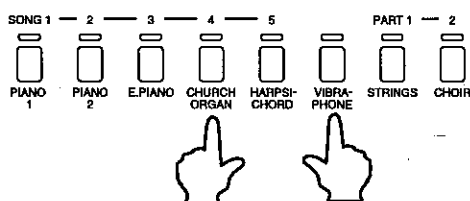
3) デュアル演奏

デュアル演奏は 2つの音色を重ね合わせます。

2つの音色を同時に発音させることにより、演奏に独特の厚みを与えることができます。

◇操作 1

2つの音色ボタンを同時に押します。

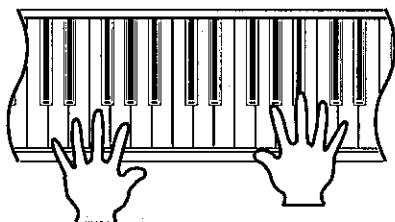


重ね合わせる2つの音色ボタンを両方押すと2つの音色ランプが点灯します。

チャーチオルガンとビブラホーンの音を重ね合わせる場合は、左図のような操作になります。

◇操作 2

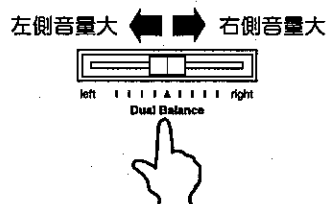
鍵盤を弾いてみましょう。



鍵盤を弾けば選択した 2つの音色が重なって発音されます。

◇操作 3

Dual Balance スライダー - で2つの音色のバランスを設定します。



左側に動かすと、パネル音色ボタンの左側音色の音量が大きくなります。

右側に動かすと、パネル音色ボタンの右側音色の音量が大きくなります。

◇操作 4

デュアル演奏の解除は、音色セレクトボタンをどれか1つ押します。

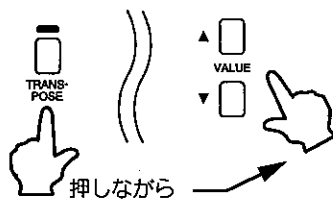
その押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

4) トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。

◇操作

TRANSPPOSE ボタンを押しながら **VALUE** ボタンで移調させます。



TRANSPPOSE ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間、現在セットされているトランスポーズの値がLEDに表示されます。

電源 ON 時は「0」に設定され TRANSPPOSE ボタンのランプは消灯しています。

VALUE ▲ ボタンを押す度に半音ずつ調が上がり、VALUE ▼ ボタンで半音ずつ調が下がります。

-6 ~ 5 の間で設定できます。

□ □ - 6 ~ □ □ 0 ~ □ □ 5

-6, -5, -4, -3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, 4, 5
F#, G, G#, A, A#, B, C, C#, D, D#, E, F

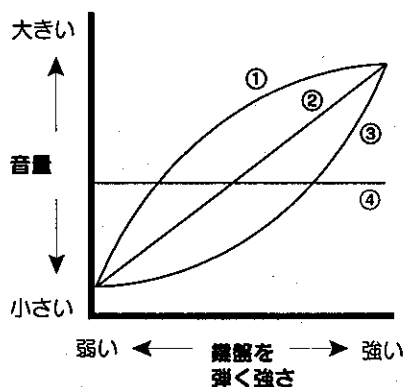
■ TRANSPPOSE ボタンのランプは、八長調 (C) 以外のキーにセットされている時に点灯します。

例えば、ここで「-3」にセットしておき、TRANSPPOSE ボタンのランプを点灯させれば、半音3つ分音が下がり TRANSPPOSE ボタンのランプを消灯させれば、ワンタッチで八長調 (C) のキーに戻ります。

5) タッチカーブ

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。

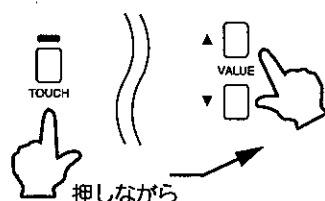
本機では、4種類のタッチカーブを装備しています。



- ① LIGHT (ライト) : 弱いタッチで弾いても大きな音ができます。小さなお子様や、軽いタッチをお好みの方に向けたタッチカーブです。
- ② NORMAL (ノーマル) : アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。TOUCH ボタンのランプが消灯している時は、このカーブになっています。
- ③ HEAVY (ヘビー) : 強いタッチで弾くと大きな音が出ます。指の力の強い人や練習向けのタッチカーブです。
- ④ OFF (オフ) : タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。

◇操作

TOUCH ボタンを押しながら VALUE ボタンを押して
タッチの種類を選びます。



TOUCH ボタンのランプが点灯し、ボタンを押している間 LED に現在選ばれているタッチカーブが表示されます。VALUE UP/DOWN ボタンを押して LIGHT/HEAVY/OFF の3種類の中から選択します。ここで選択したタッチカーブは、TOUCH ボタンのランプが点灯時に有効になります。

TOUCH ボタンのランプが消灯時は、NORMAL (ノーマル) に設定されます。



6) デモ曲の演奏

本機には、音源のすばらしさを生かしたデモ曲を 38 曲内蔵しています。

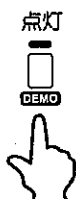
曲No.

1 幻想即興曲/ショパン	14 グローリア	27 アニエーローリー
2 エリーゼのために/ベートーヴェン	15 ジングルベル	28 ダニーボーイ
3 貴婦人の乗馬/ブルクミュラー	16 おめでとうクリスマス	29 蛍の光
4 アラベスク第1番/ドビュッシー	17 喜びの歌	30 グリーンスリーブス
5 花の歌/ランゲ	18 ショパン前奏曲作品28の7	31 PIANO1
6 別れの曲/ショパン	19 ブラームスの子守歌	32 PIANO2
7 トルコ行進曲/モーツァルト	20 カルメン組曲より(闘牛士の歌)	33 E.PIANO
8 10人のインディアン	21 スケートーズ ワルツ	34 CHURCH ORGAN
9 キラキラ星	22 いとしのクリメンタイン	35 HARPSICHORD
10 鐘の音	23 故郷の人々(スワニー河)	36 VIBRAPHONE
11 山の音楽家	24 わらの中の七面鳥	37 STRINGS
12 まきびとひつじを	25 聖者の行進	38 CHOIR
13 きよしこの夜	26 ヤンキードウドル	

●No.1~7: クラシック名曲集 / No.8~30: お子供になじみのデモ曲集 / No.31~38: 音色紹介デモ曲集

◇ 操作1

DEMOボタンを押します。



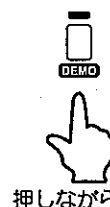
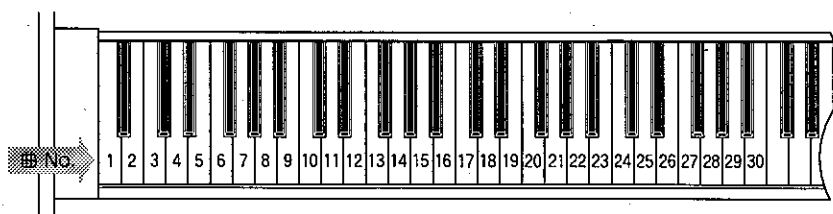
DEMOボタンのランプが点灯し、1曲から38曲までを連続再生します。再度DEMOボタンを押すまで繰り返します。
LEDには、曲番号が表示され演奏されます。



◇ 操作2

クラシック名曲集 / お子供になじみのデモ曲集 (No1~30) を聴く時は、DEMOボタンを押しながら聴きたい曲の鍵盤を押します。

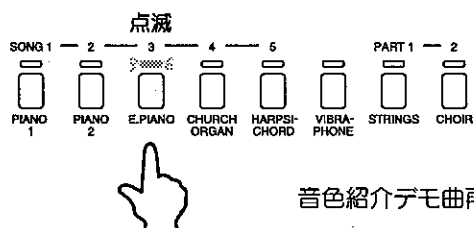
(DEMOボタンを押した後、VALUEボタンで曲No.を選ぶこともできます。)



No1 ~ 30 のデモ曲には、左端から 30 個の白鍵が割り当てられています。

◇操作 3

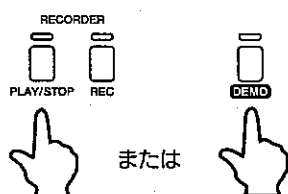
操作 1 でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して音色紹介デモ曲 (No.31 ~ 38) を選択できます。(DEMO ボタンを押した後、VALUE ボタンで曲 No. を選ぶこともできます。)



音色紹介デモ曲再生中は、その音色ボタンのランプが点滅します。

◇操作 4

デモ曲の演奏を止めるには、もう一度 DEMO ボタンか PLAY/STOP ボタンを押します。



DEMO ボタンのランプが消灯します。

■ DEMO ボタンを押した後なんの操作もしなければ、1 曲から 38 曲までを連続再生します。再度 DEMO ボタンを押すまで演奏を繰り返します。

■ デモ曲演奏中は、エフェクトの切り替えはできません。

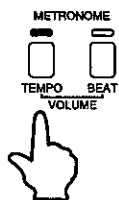
7) メトロノーム

メトロノームを使って練習をしましょう。

メトロノームの発音とテンポ設定。

◇操作1

TEMPO ボタンを押します。

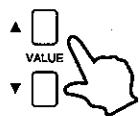


120

TEMPO ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。
LED にそのテンポの値が表示されます。

◇操作2

VALUE ボタンを押してテンポの早さを設定できます。



LED にテンポが表示されている間、テンポの値を ♩ =30 ~ 300 の範囲で
設定できます。(6/8 拍子のときは、♩ =60 ~ 600)

30 ~ 300

◇操作3

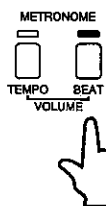
再度 TEMPO ボタンを押すとストップします。

TEMPO ボタンのランプは、消灯します。

メトロノームの拍子設定。

◇操作1

BEAT ボタンを押します。

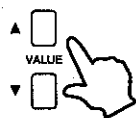


4-4

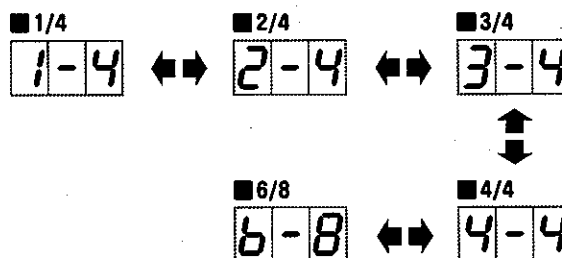
BEAT ボタンが点灯し、LED にその拍子が表示されメトロノームが
発音します。

◇操作2

VALUE ボタンを押して拍子を選択します。



1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 6/8 拍子より選択することができます。



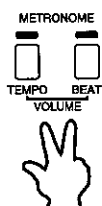
◇操作3

再度 BEAT ボタンを押すとLEDは、消灯しメトロノームが止まります。

メトロノームの音量設定。

◇操作1

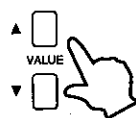
METRONOME ボタン (TEMPO+BEAT) を押します。



METRONOME (TEMPO+BEAT) ボタンが点灯し、
メトロノームが発音します。
LEDにその音量の値が表示されます。

◇操作2

VALUE ボタンを押して音量を設定します。



1～10の範囲で設定できます。



◇操作3

再度 METRONOME ボタン (TEMPO/BEAT) を押すとランプが消え、
メトロノームが止まります。

3. 録音・再生

1) 録音

本機では、自分の演奏を5曲まで、録音し再生することができます。

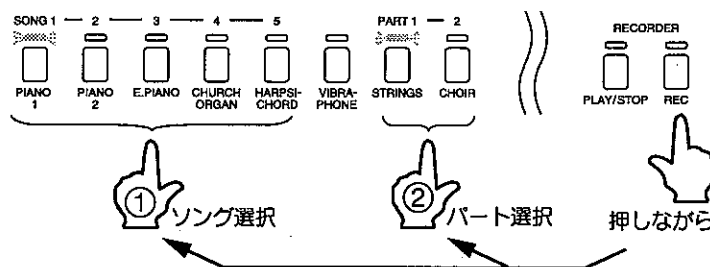
それぞれの曲（ソング）は、2つのパートから構成されており、1曲に2回の演奏を録音することができ再生時には、重ね合わせて再生できます。

録音は、録音する曲（ソング）の番号とそのパートを選択して行います。

SONG ボタンとPARTボタンは、音色ボタンに対応しています。

◇操作1

REC ボタン を押しながらソングとトラックを選択します。



REC ボタン を押ししている間、SONG ボタン とそのPART ボタンが各1コずつ点滅しています。
この点滅しているボタンが録音の行われるソングとパートです。

（この時、SONG ボタン とPART ボタンを押して録音するソングとパートを変更できます。）

パートの選択をしないと自動的にパート1が選択されます。

この時、REC ボタン を押しながらPART2 ボタンを押してランプを点滅させパート2へ録音することもできます。

REC ボタン を離すと点滅していたSONG ボタン とPART1ボタンのランプが消灯し、REC ボタンのランプが点滅します。録音待機状態となります。

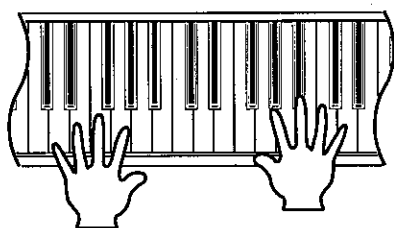
また同時に音色のランプ（設定する以前に選択していた音色）が点灯します。

ここで録音を行う音色を設定できます。

◇操作2

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

(PLAY/STOP ボタンを押しても録音を開始できます。)

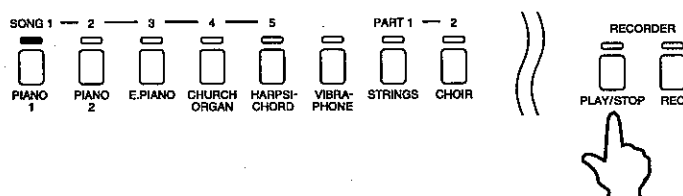


鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンのランプが点灯します。

録音中の音色変更も記憶されます。

◇操作3

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタンを押して録音を終了します。

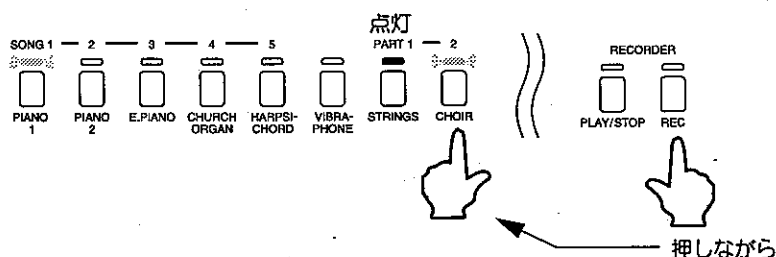


REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが消え録音が停止します。

■ひき続き、パート1 に録音した演奏を聴きながら、パート2 の録音を試みましょう。

◇操作1

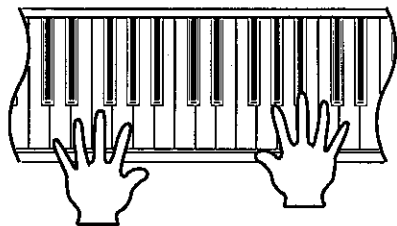
REC ボタンを押しながら PART2 ボタンを押します。



指定された SONG1 ボタンと PART2 ボタンのランプが点滅し、録音待機状態であることを示します。
また、PART1 ボタンのランプが点灯していますが、パート1 の録音内容が再生待機状態であることを示しています。

◇ 操作 2

鍵盤を弾きパート2への録音を開始します。



鍵盤を弾くと自動的にパート2の録音が始まり、同時にパート1が再生されます。

このときRECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが点灯します。

鍵盤を弾かずにPLAY/STOPボタンを押して録音を開始させることもできます。

□ 操作 3

PLAY/STOPボタンを押して録音終了します。

RECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが消え、パート2の録音とパート1の再生がストップします。

■ レコーダーの総記憶容量は、約5,000音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。

■ レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えません。

■ パート1の演奏を再生しないでパート2に録音したいときは、RECボタンを押す前にPLAY/STOPボタンを押しながらパート1のランプを消灯させます。(P.21 参照)

■ 録音中のパネル操作に関して...

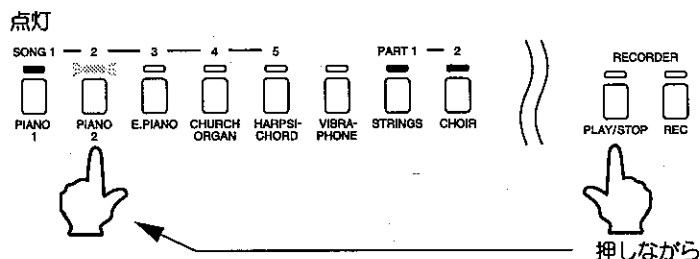
- ・ 音色変更は記憶します。
- ・ デュアルスプリットモードの移行は記憶します。
- ・ エフェクト設定の変更は記憶せず、現在音色にアサインされているものがそのまま使われます。
- ・ テンポ変更は記憶しません。
- ・ デュアルスプリットバランスの変更は録音されません。録音直前のバランスで録音されます。
- ・ タッチカーブ、トランスポーズボタンのON/OFF変更は、録音されません。再生時はトランスポーズがどこに設定してあっても、録音したときと同じ音程で再生されます。

2) 再生

録音した曲を再生します。

◇操作

PLAY/STOP ボタンを押しながら再生する SONG ボタンを押します。



PLAY/STOP ボタンを押している間で再生されるソングボタンが点滅し、そのパートボタンが点灯します。また、点灯している SONG ボタンが録音されているソングです。PLAY/STOP ボタン から手を離すと再生が開始します。

ソング2を再生する場合は、PLAY/STOP ボタンを押しながら SONG 2 ボタンを押してランプを点滅させます。(上図) PLAY/STOP ボタン から指を離したらソング2の再生が開始されます。

■再生中には、演奏情報は、MIDI データとして送信します。(P.28 参照)

パート1は1ch,パート2は、2ch固定で 送信します。

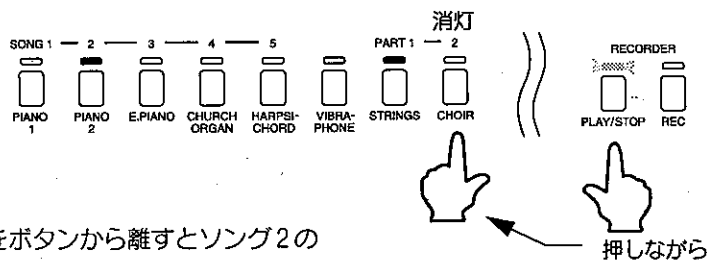
デュアル、スプリットを録音したときは、パート1は9ch,パート2は10ch の情報を加えて送信します。

■再生パートの選択

上の操作でPLAY/STOP ボタンを押した状態の時、パートのランプが点灯していると再生され、消灯していると再生されません。パート2を再生しないようにするには、下記のような操作になります。

◇操作

PLAY/STOP ボタンを押しながら PART2 ボタンを押し消灯させる。



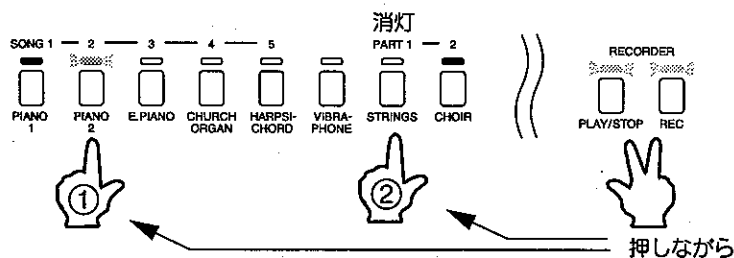
両手をボタンから離すとソング2のパート1のみ再生されます。

3) 曲の消去

ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲をパート毎に消去します。

◇操作

PLAY/STOP ボタンとREC ボタンを同時に押しながら消去する SONG ボタンとPART ボタンを押します。



PLAY/STOP ボタンとREC ボタンを同時に押すと、現在選択されているソングのランプが点滅し、録音されているソングのランプが点灯します。

SONG ボタンを押してソングを選んだ後、消去するPART ボタンを押してランプを消灯させたら、そのソングのパートのデータが消去されます。

上図は、ソング2のパート1を消去します。

- ソングを選んだだけでは曲は消去されません。
- 複数のソングやパートを消去するときは、繰り返し操作を行ってください。
- 録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ボタンとREC ボタンを押したまま、電源を入れてください。

4. 設定モード

本機には、いろいろなピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
この設定を行う場所を「設定モード」といい、この設定モードでは以下のメニューの設定を行うことができます。

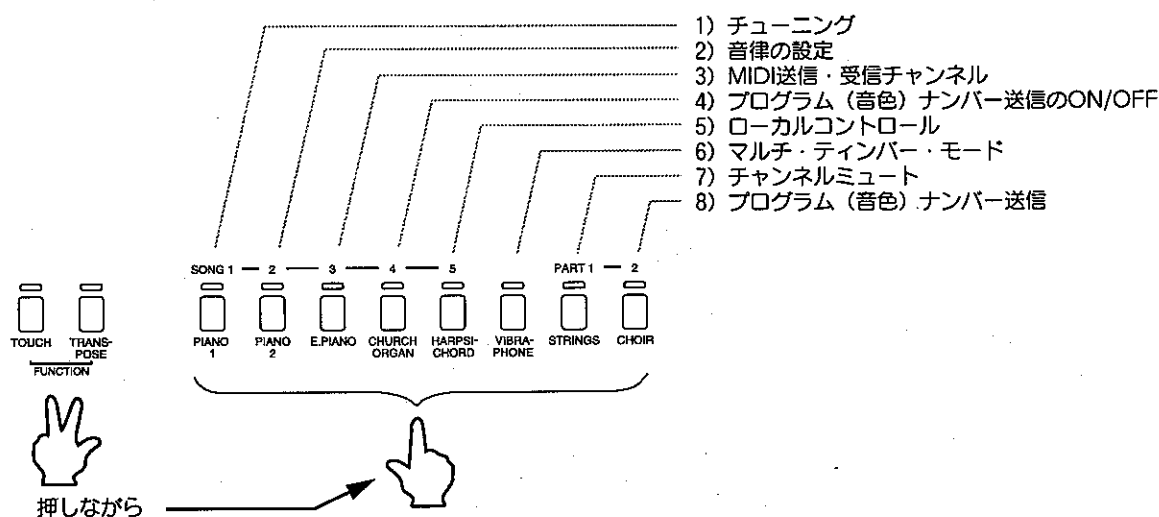
●設定モードのメニュー

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1) チューニング | 5) ローカルコントロール |
| 2) 音律の設定 | 6) マルチ・ティンバー・モード |
| 3) MIDI 送信・受信チャンネル | 7) チャンネルミュート |
| 4) プログラム（音色）ナンバー送信の ON/OFF | 8) プログラム（音色）ナンバー送信 |

(1) 設定モードへの入りかた

◇操作

FUNCTION ボタン (TOUCH+TRANSPPOSE ボタン) を押しながら
各メニューが割り当てられた音色ボタンを押します。

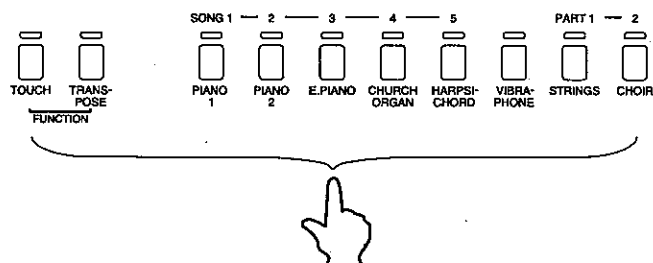


押された3つのボタンが点滅します。

(2) 設定モードの終り方

◇操作

TOUCH ボタンまたはTRANSPOSE ボタンを押すか、音色ボタンを押して音色を選択します。



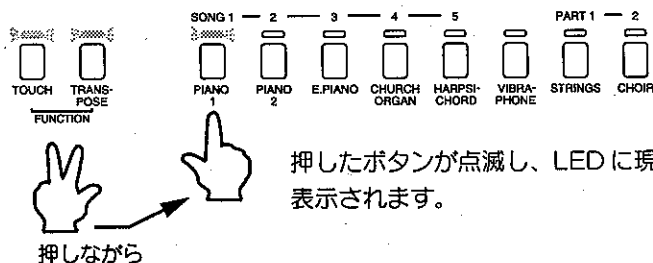
ランプの点滅が消え " 設定モード " から出ます。

1) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。

◇操作1

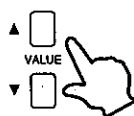
FUNCTION ボタン (TOUCH+TRANSPOSE ボタン) を押しながら、PIANO1 ボタンを押します。



押したボタンが点滅し、LED に現在設定されている値が表示されます。

◇操作2

VALUE ボタンで値を設定します。



本機では、「A」の音を基準にして設定をします。

427.0 ~ 453.0 (Hz) の範囲を 0.5Hz の単位で設定ができます。

表示は、百の位が省略されて十の位以下が表示されています。

27.0 ~ 53.0 = 427.0 ~ 453.0

■この状態で鍵盤を弾くと、「設定モード」にはいる前に選ばれていた音色が鳴ります。

チューニング調整は、この音色を使って行います。音色を変えたい場合は一度「設定モード」から出て音色を選びなおしてから、再度「操作1」、「操作2」の操作を行います。

■電源を入れた時は、440.0Hz に設定されます。

2) 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を全部で6種類本体にセットしています。

本機にセットされている音律は以下の通りです。

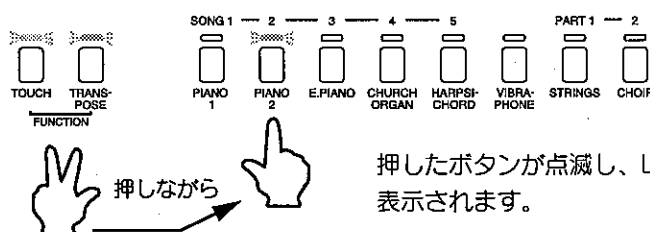
■各音律の特長

◆ 平均律	ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変わらないという特長があります。
◆ 純正律	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ ピタゴラス音律	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
◆ 中全音律	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ ヴェルクマイスター第三法 キルンベルガー第三法	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した「調性の性格」を反映することのできる調律法です。

次より設定方法を説明していきます。

◇操作1

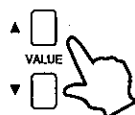
FUNCTIONボタンの(TOUCH+TRANSPPOSEボタン)を押しながら、PIANO2ボタンを押します。

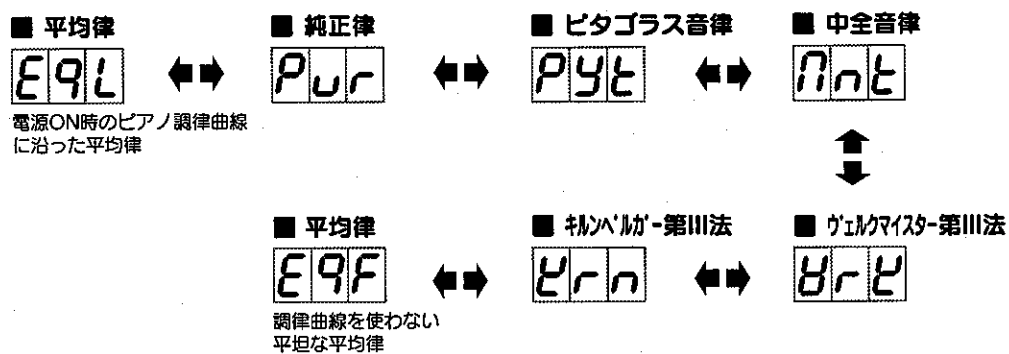


押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている音律が表示されます。

◇操作2

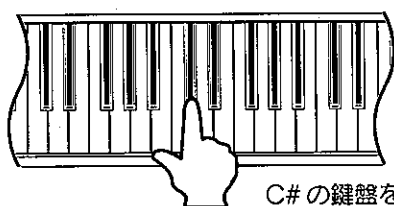
VALUEボタンで音律を設定します。





◇操作3

鍵盤を押して、音律の調（キー）を設定します。









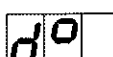




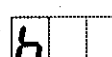
C# の鍵盤を押す。



設定は88鍵全部でできます。
鍵盤を押したら、LEDに調が表示されます。

■ 電源を入れた時は、平均律（ピアノの調律曲線に沿った平均律）になります。

■ 平均律を選択した場合は、調の設定をしても変化はありません。

C → 	F# → 
C# → 	G → 
D → 	G# → 
D# → 	A → 
E → 	A# → 
F → 	B → 

■ MIDI 機能の使い方

ここで、MIDI について説明をしておきます。

● MIDI について

MIDI について簡単に説明します。

MIDI (ミディ) とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

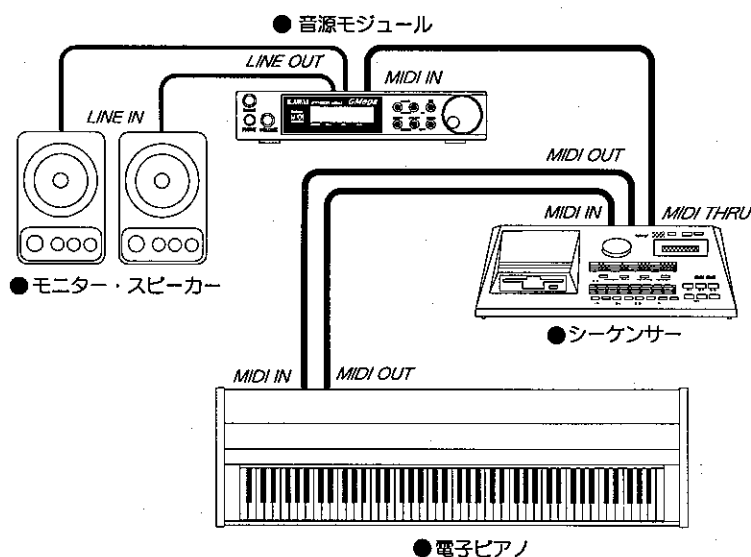
MIDI 端子には、IN, OUT, THRU の3つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

IN	: 鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	: 鍵盤情報や音色情報を送信します。
THRU	: 受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの2種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。

受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

例えば、電子ピアノ、シーケンサー、音源モジュール、モニター・スピーカーを下のように接続します。

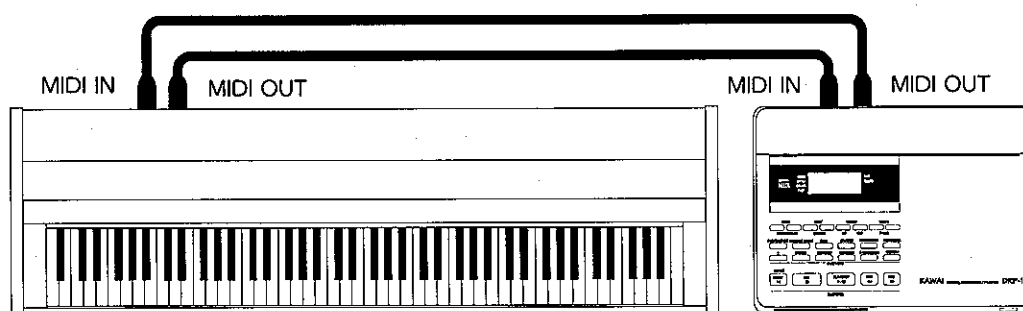


電子ピアノの演奏は、シーケンサーへ送られ録音されます。またシーケンサーのMIDI THRUより音源モジュールへ送られモニター・スピーカーから発音します。

また、シーケンサーで録音された演奏情報は、電子ピアノに送られ再生できます。

■ MIDI の使用例

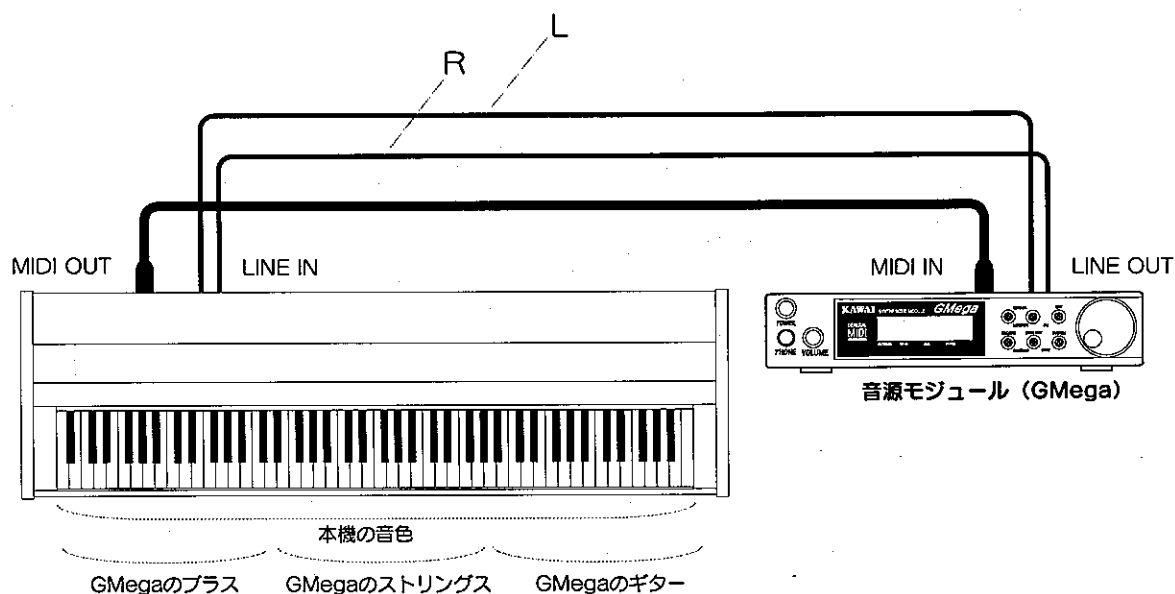
(1) シーケンサーを使つての録音/再生



図の様にカワイのシーケンサーDRP-10に接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができます。電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン (P.34 参照) にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハーブシコード、ピブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。

また、DRP-10の場合音源も内蔵していますので、その内蔵音色を使ってピアノ演奏を楽しむこともできます。

(2) シンセサイザー音源モジュールとのプレイ



図のように接続すれば、(1) のような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上で多数の音色を分割して演奏することができます。

この場合 GMega は、マルチモードで3音色のマルチ音色スプリットにセッティングします。

GMega の取扱いについては、GMega の取扱説明書をお読みください。

■本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信

電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信

電子ピアノと MIDI で接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。また、ソステヌートペダルの場合は、オン / オフの送信ができます。

◆ ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定

電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

◆ エクスクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信

レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

本機の MIDI 機能についての詳細は、" MIDI インプリメンテーションチャート "（巻末）をご覧ください。

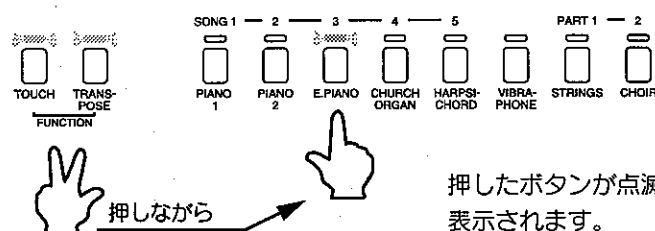
3) MIDI 送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。

チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの2種類がありますが、本機ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

◇操作1

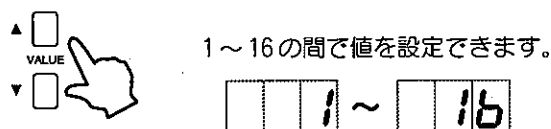
FUNCTION ボタン (TOUCH+TRANSPPOSE ボタン) を押しながら、**E.PIANO** ボタンを押します。



押したボタンが点滅し、LED に現在設定されている値が表示されます。

◇操作2

VALUE ボタンで値を設定します。



1 ~ 16 の間で値を設定できます。

■本機は電源オン時には、1 ~ 16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信ようになります。オムニオフで1chに設定したい場合は、一度チャンネルを2に設定してから1に戻してください。

■マルチティンバーモードが、ON1またはON2 (P.34) のときは、スプリット演奏時に低音側の演奏は、ここで設定したチャンネル+1チャンネルで送信します。例えばここでチャンネルを3に設定してマルチティンバーをON2にしたとき、スプリット演奏の低音側の音色の演奏は、4チャンネルで送信されます。

4) プログラム(音色)ナンバー送信のON/OFF

(1) 音色セレクト・ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

本機では、通常の演奏中に8個の音色セレクトボタンを切り替えることにより、下表のような1～8までのプログラムナンバーを送信できるようになっています。(マルチティンバーモードを2に設定したときは、右表右の様なプログラムナンバーを送信します。)

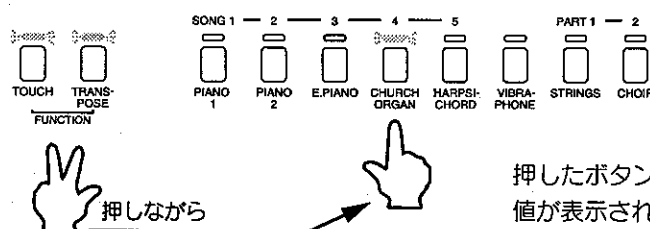
音色セレクトボタン	プログラム・ナンバー	マルチティンバーモード2のとき
PIANO1	1	1
PIANO2	2	2
E.PIANO	3	5
CHURCH ORGAN	4	17
HARPSICHORD	5	7
VIBRAPHONE	6	12
STRINGS	7	49
CHOIR	8	53

また音色セレクト・ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、デジタルエフェクト、リバーブのボタン操作をMIDIエクスクルーシブデータとして送信することができます。

この音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないか(オン/オフ)を設定することができます。

◇操作1

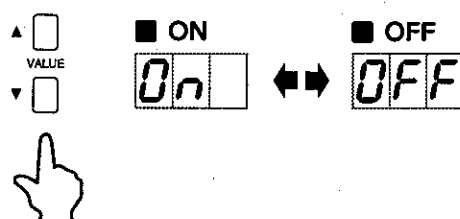
FUNCTIONボタン (TOUCH+TRANSPPOSEボタン) を押しながら、CHURCH ORGANボタンを押します。



押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

◇操作2

VALUEボタンで値を設定します。



電源オン時は、音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信は、自動的にオンにセットされます。

デュアルモード時には、デュアルモードのオン/オフ情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。

5) ローカル・コントロール

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロール オン/オフモードと呼びます。

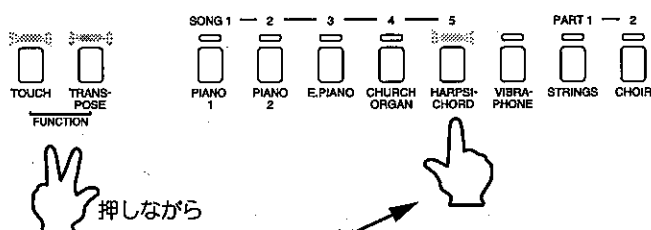
ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。

一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT します。

このときは、外部からの MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。

◇操作1

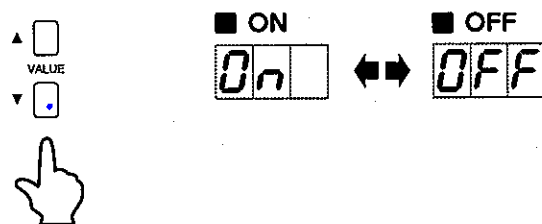
FUNCTIONボタ (TOUCH+TRANSPPOSEボタ) を押しながら、HARPSICHORDボタを押します。



押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

◇操作2

VALUEボタで値を設定します。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

■電源オン時、ローカルコントロールは、オンに設定されています。

6) マルチ・ティンバー・モード

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送信受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。

この機能により、外部に DRP-10 などのシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチ・ティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

本機には、2種類のマルチ・ティンバー・モードを装備しています。

●マルチ・ティンバー・モード 1

マルチ・ティンバー・モード 1 を ON に設定（ON1）すれば、MIDI1～8チャンネルを受信した場合、[A表]の音色が鳴ります。

MIDI1～8チャンネルには、パネル上の各音色が割り当てられます。

[A表] MIDI1～8チャンネルを受信した場合、下記の[A表]の音色が鳴ります。

チャンネル No.	音色
1	PIANO1
2	PIANO2
3	E.PIANO
4	CHURCH ORGAN
5	HARPSICHORD
6	VIBRAPHONE
7	STRINGS
8	CHOIR

●マルチ・ティンバー・モード 2

マルチ・ティンバー・モード 2 を ON に設定（ON2）すれば、各チャンネル毎にプログラムチェンジ情報を受信することによって下記の[B表]に対応した音色変更をすることができます。

また、モード2では、チャンネルミュートの設定することができます。（P.36 参照）

[B表]

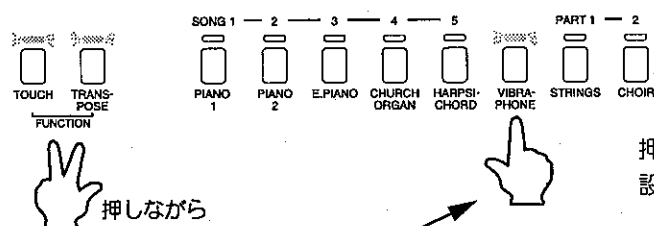
音色	プログラム チェンジ No.	音色	プログラム チェンジ No.
PIANO1	1	CHURCH ORGAN	20
PIANO1	8/1(16)*	HARPSICHORD	7
PIANO1	3	VIBRAPHONE	12
PIANO1	4	STRINGS	49
PIANO2	2	CHOIR	53
E.PIANO	5		
E.PIANO	6		
CHURCH ORGAN	17		

* 1 (16) とは、バンク (MSB) 16, プログラムナンバー1という意味です。

上記以外のプログラムNo.を受信した場合は、発音しません。

◇操作1

FUNCTIONボタンの (TOUCH+TRANSPOSEボタン) を押しながら、
VIBRAPHONEボタンを押します。



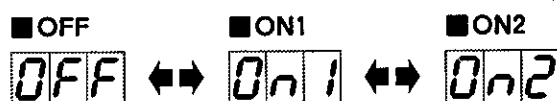
押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

◇操作2

VALUEボタンで値を設定します。



OFF/ON1/ON2より選びます。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

マルチ・ティンバー・モード がオフのときに、MIDI 情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色セレクトボタンの音色が鳴ります。

マルチ・ティンバー・モード 1がオンのときは、どの音色セレクト ボタン が選ばれていても受信したMIDIチャンネルに対応して前ページの [A 表] の音色が無条件に鳴ります。

マルチ・ティンバー・モード 2 がオンに設定されると、受信したプログラム・チェンジ・ナンバーに従って音色が発音します。

また、受信チャンネルごとに発音のオン / オフを設定することができます。(P.36 参照)

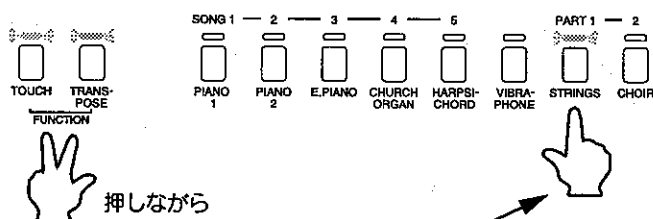
■電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されます。

7) チャンネルミュート

各チャンネルの発音のオン / オフが設定できます。

◇操作 1

FUNCTION[※] (TOUCH+TRANSPPOSE[※]) を押しながら、
STRINGS[※]を押します。

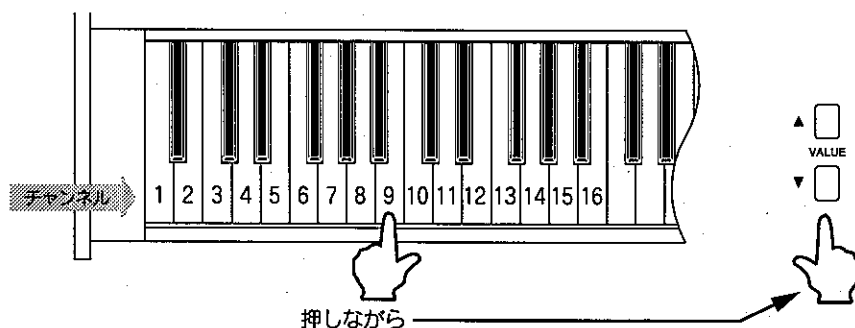


押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

6) マルチティンバーモードが、OFF
または ON1 のときはこのモード
には入れません。

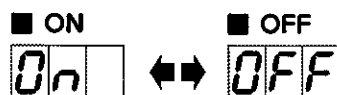
◇操作 2

左端から 16 個の白鍵でチャンネルを指定します。



◇操作 3

VALUE[※] で ON/OFF を設定します。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

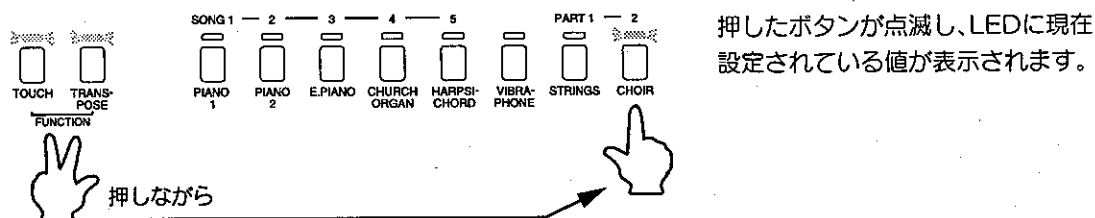
■電源を入れた時は、1ch が ON で、2～16ch が OFF に設定されます。

8) プログラム(音色)ナンバー送信

本機では、1～128までのプログラムナンバーを送信することができます。

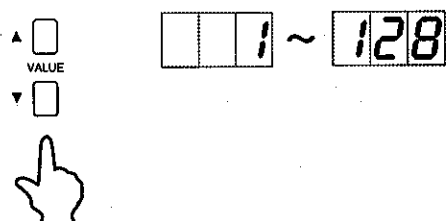
◇操作1

設定モード (P.23 参照) で、CHOIRボタを押します。



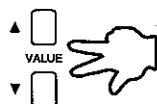
◇操作2

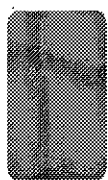
VALUEボタでプログラムナンバーを設定します。



◇操作3

2つのVALUEボタを同時に押すとプログラムナンバーの送信が実行されます。





主な仕様

■ 鍵盤	88鍵 / アドバンスド・ハンマー・アクション
■ 発音数	最大64 (音色により異なる)
■ 音色 (8音色)	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、チャーチオルガン、 ハーブシコード、ビブラフォーン、ストリングス、クワイヤー
■ 効果	リバーブ (ルーム、ステージ、ホール、3Dルーム、3Dホール)、トレモロ、コーラス、 ディレイ1/2/3
■ 音 律	平均律 (2)、純正律、ピタゴラス音律、中全音律、ヴェルクマイスター第Ⅲ法、 キルンベルガー第Ⅲ法
■ その他の 機能	ボリューム、トランスポーズ、チューン、デュアル、 デュアルバランス、テンポ、デモ (38曲) タッチカーブ選択 (ライト、ノーマル、ヘビー、オフ)、メトロノーム
■ レコーダー	2トラック×5ソング、総記録容量 約5,000音
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子	ヘッドホン (2)、ペダル、MIDI (IN、OUT、THRU) LINE IN (L、R) <Pin>、LINE OUT (L/MONO、R) <Phone>
■ 出 力	20W×2
■ スピーカ	16cm×2
■ キーカバー	スライド式
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	46W
■ 仕上げ	ブックソロモン
■ 寸 法	[W×D×H] 139×50×86 (cm) スタンド含む
■ 重 量	55Kg
■ 付属品	取扱説明書 (本書)、保証書、ご愛用者カード

KAWAI [Model PN250] MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date: JUL 15, '97
Version: 1.0

ファンクション	送 信	受 信	備 考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1 1 ~ 16	1 1 ~ 16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 モード1.3*	* 電源ON時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定操作に よりオムニ・オフ。
ノート ナンバー 音域	15 - 113** *****	0 - 127 15 - 113	** 15-113 トランスポーズを含む。
ベロシティ ノート. オン ノート. オフ	○ 9nH v=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ. ベンド	×	×	
7 11 64 66 67 0.32 コントロール チェンジ	× × ○ (右ペダル) ○ (中ペダル) ○ (左ペダル) ×	○ ○ ○ × ○ ○	ボリューム エクスプレッション ダンパーペダル リズミートペダル ソフトペダル バンクセレクト (プログラマチェンジ 対応表参照)
プログラムチェンジ 設定可能範囲	○ (0 - 127)	○	(プログラマチェンジ 対応表参照)
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル クロック タイム コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○*** ○*** ×	*** マルチティンバーモード ON1, ON2の時
備 考			

モード1 : オムニオン、ポリ モード2 : オムニオン、モノ
 モード3 : オムニオフ、ポリ モード4 : オムニオフ、モノ

○: 有り
 ×: 無し

MIDI Exclusive Format

<TYPE1> F0 40 0n 30 04 02 D1 D2 F7

D1 D2 : Function

00 00 : Multi off

01 00 : Multi on1

02 00 : Multi on2

<TYPE2> F0 40 0n 10 04 02 D1 D2 F7

D1 D2 : Function

0D 00~05 : Effect off(0),mode1~5 on

0E 00~05 : Reverb off(0),mode1~5 on

14 00~7F : Dual balance

16 1F~40~60 : Tune(40=440Hz)

17 00/7F : Prog send off/on

18 00~03 : Touch curve
(0:light 1:normal 2:heavy 3:off)

<TYPE3> F0 40 0n 10 04 02 D1 D2 F7

D1 D2 D3 :

20 00~07 00~07 : Dual on D2:Right tone D3:Left tone

21 00~07 00~07 : Split on D2:Upper tone D3:Lower tone

25 00~06 00~0B : D2:Temperamento D3:Key

26 00/7F 00~0F : Multi2 ch D2:off/on D3:ch

*)0n : 00~0F(MIDI ch)

9708
Printed in Japan



株式会社河合楽器製作所
電子楽器事業本部
〒430-8665 浜松市寺島町200番地
TEL 053-457-1277
FAX 053-457-1279